

城山町地区自治会連合会

都市と自然が共生するまち 「しろやま」



城山町地区の概要

城山町地区は、相模原市のほぼ中央に位置し、中央から東部にかけては宅地化、大型店の進出が進み、北部には高尾山系に連なる山々があり、西部には相模川、津久井湖を有し、都市化の進む地域と起伏に富んだ自然を有する地域となっております。

この城山町地区は、昭和30年に川尻村、湘南村、三沢村の一部が合併し城山町として誕生し、平成19年に相模原市と合併し今日に至っております。平成20年4月1日現在の人口は、23,232人となっております。

城山町地区自治会連合会の概要

城山町地区自治会連合会は自治会長相互の親睦と交流、情報交換等の場として昭和58年に発足し、ほぼ毎月1回連合会の会議が開催されています。また、行政など関係機関との連携により、各自治会においては地域住民の福祉の向上等を図るための活動も行ってあります。

平成20年4月1日現在における加入世帯数は6,150世帯。72.7%の加入率となっております。

谷ヶ原自治会館の建設

自治会法人谷ヶ原自治会では、健康で明るい豊かなコミュニティを推進するため、自主的なコミュニティ活動を行っております。しかし、活動の拠点となる自治会館は昭和41年度の建設であるため、老朽化が激しく建替えの時期に来ていました。そこで平成17年度に自治会館建設委員会を設置し、用地の取得から建設に至るまでの検討を行い、あわせて平成19年2月には法人化を図り、自治会員、地権者の方々、行政の協力により平成20年3月末に新しい自治会館が完成しました。

自治会員相互の親睦を深め、コミュニティ活動の活性化に向けて、より一層の活発な活動が期待されます。

城北・里山まつり

城山町の北部に位置する城北自治会は、豊かな自然に恵まれた地域です。この自然を守り、地域の活性化を図るねらいから、9年前より6月下旬に「城北・里山まつり」を実施しています。穴川沿いに植えられた数千本の紫陽花は見事な花を咲かせ、夜には野生のホタルが乱舞します。まつりの当日は、地場野菜や地元の窯で作られた炭などの販売、親子自然体験教室、ホタルの鑑賞会が実施されます。毎年約5,000人の方々が市内はもとより、八王子、横浜、藤沢などからもおいでになります。この活動のために、自治会の中に「プチエコ城北」という団体を組織し、草刈や用水路の管理、紫陽花の手入れなどの里山の保全活動に取り組んでいます。

小倉橋灯ろう流し

小倉橋は、神奈川県景勝50選、相模川八景にも選ばれ、また今年、土木学会選奨土木遺産にも認定された景勝地です。この地で、毎年8月16日のお盆の送り火の日に『小倉橋灯ろう流し』が行われ、今年で第9回を迎えました。会場には各地から約3,800名を超える大勢の方が訪れ、500個以上の灯ろうが流され、ゆっくり流れていく様を見つめたり、手を合わせている方も見られました。最後に花火が打ち上げられ、夏の夜空を華やかに彩るひと時に大きな歓声が起こり、たくさんの方が楽しんでおります。

城山夏まつり

城山町のほぼ中央にある川尻八幡宮の夏祭り（かながわのまつり50選）です。

毎年8月27日、28日の両日に行われる祭りで27日は白丁と呼ばれる白装束に身を固めた男達が「オイッサ、オイッサ」の掛け声で御輿を担ぎ、社殿を3回まわり、3つの鳥居をくぐって朝から夜まで川尻地域を練り歩く勇壮なまつりです。28日の夜には各地区の山車による祭囃子、各種余興や出店で賑わいます。

もみじまつり

毎年10月に原宿公園で開催されるもみじまつりは、今年で32回目を迎えました。このまつりは城山町地域で行われる最大のイベントであり、城山町に限らず周辺の多くの方々が賑わいます。会場では、町内



谷ヶ原自治会館



小倉橋灯ろう流し



もみじまつり

の小・中学校をはじめとしたさまざまな団体が、ダンスやドリル、吹奏楽などの披露や、各団体の出店や啓発ブース、ミニSLの運行やエア遊具などもあり、秋の一日を親子連れなどで楽しむことができるイベントとなっています。



城北・里山まつり



城山夏まつり

津久井町地区自治会連合会 水源文化の まちづくりを目指して



三つの湖に囲まれたわがまち

豊富な緑と水源を抱える津久井町は、地域の文化や伝統を大切にするとともに地域コミュニティを維持してきました。こうした中で津久井町地区自治会連合会（以下「地区連」）は、平成18年3月20日に相模原市と旧津久井町が合併したことにより、相模原市自治会連合会（以下「市連」）との統合協議を経て平成20年4月1日から市連の構成団体となりました。

地区連の経緯

昭和37年当時の津久井町広報紙を見ると、昭和37年5月10日に「津久井町部落連絡協議会総会を行い、会長に永井文俊氏を選出した」とあることが嚆矢です。

設立の目的は各部落相互の連絡協調を図り円満公平な町政運営の補佐役として、また幹部の養成と親睦を目的としていました。その後昭和49年5月に「津久井町自治会連絡協議会」に、平成5年4月には「津久井町自治会連合会」に名称変更を行う中で現在に至っています。

各地区自治会連絡協議会

【図1】のとおり、地区連は旧町村の単位を基本に6地区の連絡協議会で構成されています。地区連として統合した現在においても、各地区自治会連絡協議会が実質上地域コミュニティの中核として活動を行っております。

各地区では、それぞれの文化や歴史を生かした事業や、地域の団体と連携する中で文化祭や敬老会、スポーツ行事、防災訓練など幅広い活動を行っております。

今後の課題

122km²という広大な面積を持つ津久井町では住民の高齢化と人口減少、鳥獣被害や湖沼の水質悪化、森林の荒廃といった環境問題、バス路線の廃止に伴う公共交通問題など、生活・都市基盤整備の遅れなどの課題に直面しています。

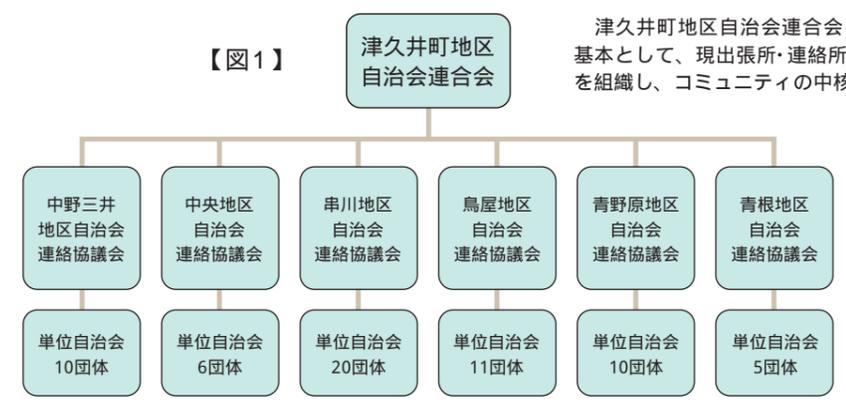
地区連のエリアが広大であることから前述のように自治会連絡協議会を主体として地域コミュニティを構成し闊達な議論をしています。新市の一体性を進めることには積極的な姿勢を持ちますが、このような地域特性があるため、実情を踏まえた対応がどうしても必要になることが考えられます。

水源地域の特性を生かして

相模原市が平成22年4月に政令指定都市への移行を目指しているところですが、移行後のまちづくりについては、地区連の果たす役割も大きいと思われます。

今後は市連の一員として水源文化のまちづくりだけでなく、自然と都市機能が一体化した魅力あるまちづくりに貢献したいと思っております。

津久井町地区自治会連合会は、旧町村の単位を基本として、現出張所・連絡所の単位で連絡協議会を組織し、コミュニティの中核を成している。



三井地区から中野地区と城山を望む。津久井町のランドマークともなっている。



串川地区 根小屋小の安全パトロール (根小屋守レンジャー)



中央地区 津久井高校を地区会場に防災訓練を実施



青野原地区 中道志川あゆまつりでは、鮎釣り大会、川の自然観察会などが同時開催される。



青根地区 休耕田を利用したコスモス園。春は菜の花園となる。



鳥屋地区 丹沢・大山クリーンキャンペーン

相模湖町地区自治会連合会

歴史情緒あふれる
森と湖のまち相模湖町

地区の概要

相模湖町地区は、相模原市の西部に位置し、昭和22年に全国初の本格的な多目的ダムとして生まれた相模湖や、巨大な奇岩奇石が見られる石老山など豊かな水とみどりに囲まれた地域です。

この地区には、寸沢嵐の国指定遺跡からも見られるように、旧石器時代から人々が居住しており、江戸時代には幕府によって整備されたと言われている、五街道のひとつ甲州道中の宿場町として、多くの旅人たちで賑わっていました。

近年では、相模湖の誕生と都心まで直結するJR中央本線の駅や中央自動車道のインターチェンジの開通等により、約1万人が住む地区に発展してきました。

自治会の状況

相模湖町地区には35の自治会があり、中山間地域という地勢的な影響などにより、4世帯で形成されている自治会から、大きな自治会でも161世帯から形成されている状況で、比較的規模の小さな自治会が多いことが特徴です。

自治会は、神社と連携したお祭りやだんご焼きなどの事業をとおして、歴史や文化の継承がされている歴史のある自治会や、阪神・淡路大震災をきっかけに自主防災組織が結成され、発展的に再編成された新しい自治会もあります。

いずれの自治会でも、現在は会員参加による交流・親睦事業が行われており、中には、神奈川県的重要文化財に指定されている「小原宿本陣」などの歴史的な施設を地域資源として活用することにより、地域の魅力づくりに取り組んでいる自治会もあります。また、歴史的・地域的に繋がりのある3つの地域（与瀬・小原、千木良、内郷地区）ごとに、自治会の連合組織が形成され、地域全体に係わる諸問題の解決、自治会相互の親睦と緊密な連携を図り、地域の発展や住民の福利増進を目指しています。

地区自治会連合会の設立

相模湖町地区には、地区自治会連合会はありませんでしたが、平成18年3月に津久井地域と旧相模原市との合併で「新相模原市」が誕生したことに伴い、これまで以上に自主的・自立的な取り組みと、少子高齢化社会の到来や地方分権の進展などといった社会情勢の変化に対応しなければならないことから、行政連絡員（自治会長）会議において地区自治会連合会を設立することについて議論が開始されました。

平成18年10月には、与瀬・小原、千木良、内郷地区から2名ずつ選出された委員で構成される「相模湖町地区自治会連合会発足準備会」にて、地区自治会連合会の組織化、運営方法、相模原市自治会連合会への加入について議論が行われるようになりました。

同年12月からは、発足準備会から提案された「相模湖町地区自治会連合会」の概要について、各単位自治会においても議論及び設立の承認がなされるようになりました。

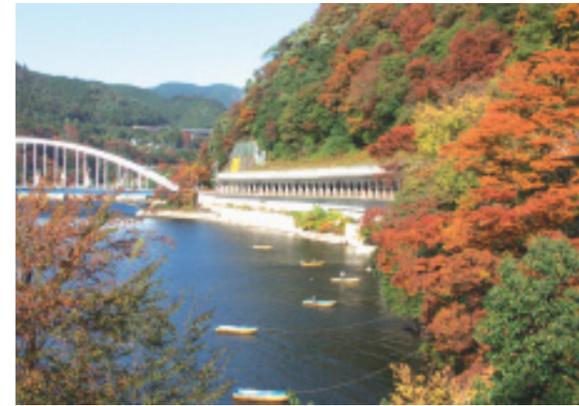
その結果、地域の問題を地域で解決する力をつけること、犯罪や事故のない安全で安心して暮らせるまちの実現、コミュニティ活動の促進、連帯感のある地域社会の実現を目指すため、平成19年5月に「相模湖町地区自治会連合会」が設立されました。

また、その間、相模原市自治会連合会との統合に向けて準備が進められ、平成20年4月に統合し現在に至っています。

地区自治会連合会の活動

地区自治会連合会は、親睦協調のための事業を実施することを目的にしていることから、市（町）の歴史ある行事として開催されていた「相模湖町文化祭」について、地区自治会連合会が設立したことを契機に、より地域に根ざし、心のかよい合うふるさとづくりに寄与するため、地区自治会連合会を中心とした実行委員会の主催で、平成19年度から装いを新たに「相模湖ふるさとまつり」として開催しています。

平成20年度には、ふるさとまつり会場にて「自治会加入キャンペーン」を実施し、自治会活動状況のパネルの展示や、来場者に対して啓発チラシの配布・



訪れる方に、森と湖の織りなす見事なコントラストを投げかけ、地域の発展に大きな役割を果たした相模湖

自治会に関するアンケート調査を行い、自治会活動に対する理解や自治会加入率の向上に取り組みました。



スポーツ・レクリエーションの振興と、健康で明るく豊かな生活を目指して町民運動会が行われています。（写真は内郷地区）



神奈川県内に唯一現存する本陣である小原宿本陣で、毎年11月3日に開催される小原宿本陣祭大名茶会の様子



相模湖ふるさとまつりの様子（写真は与瀬・小原地区）



安全で安心して暮らせるまちの実現に向けて、街頭啓発キャンペーンを実施



相模湖ふるさとまつりにおいて実施された、自治会キャンペーンの様子（写真は千木良地区）

藤野町地区自治会連合会

水と緑の大自然がつくる
芸術と文化のまち藤野

おいたち

現在の藤野町地区（旧藤野町）は、昭和30年の昭和の大合併によって生まれた地域で、中央には相模川（相模湖）が流れており、当時の南北間の交流は、東西にある勝瀬橋と弁天橋、中央部は渡船に頼っていました。また、北部地域も山に遮られ、車両は東西に迂回せざるを得ない状態でした。

昭和32年に日連大橋、同37年には沢井隧道が開通し、路線バスも走りはじめ、ようやくJR藤野駅を中心とする現在の藤野町地区が形成されていきました。

甲州街道と共に発展してきた藤野の歴史は古く、吉野、関野に宿場跡があり、現在でも県内唯一である中央高速道路のフルインターチェンジを持つ地区で、都心まで約1時間という交通の利便から一時は人口も増加しました。

都心に近い大自然

四方を山々に囲まれ、豊かな川が貫流する藤野町地区は、水と緑の調和した、市内でも有数の自然を満喫できる地域です。

北部には高尾山と肩を並べる「陣馬山」を擁し、休日には四季折々の自然を体感すべく数多くのハイカーが訪れます。

南部地域は道志川の清流に安らぎを求めたキャンプやバーベキュー客で賑わい「やまなみ温泉」の露天風呂で日帰り入浴を楽しんでいます。

また、自然を生かしたスポーツも盛んで、「陣馬山トレイルレース」や県内でも唯一27ホールを誇る「ふじのマレットゴルフ場」などにも県内外から愛好者たちが集まります。

芸術と文化、そして産業へ

藤野は豊かな自然の中、芸術と文化の町としても発展し、「緑のラブレター」や名倉にある「芸術の道」をはじめ、町の至るところで自然と調和した作品を目にすることができる「ふるさと芸術村」として、現在も多くの芸術家などが作品づくりに励んでいます。

また「神奈川県立藤野芸術の家」では、宿泊を含め様々なイベントが催され、活動の拠点としても利用されています。

藤野は「ゆずワイン」や「ゆずの尊（みこと）」などの特産品も豊富です。

「にほんの里100選」に選ばれた佐野川地区で栽培される「お茶」も絶品で、急峻な山に展開する茶畑群も一見の価値があります。

自治会の組織化、そして市連へ

藤野町地区は、その地形上から集落が点在しており、自治会活動はほぼ単位自治会ごとに限られていました。町時代も64名の行政委員が年1回の会議で情報交換する程度でしたが、相模原市との合併により、市自治会連合会と統合すべく、連合会組織の設立に向け準備を開始しました。

平成19年5月山崎光正委員長を筆頭に各地域を代表する12名の委員により発足準備委員会を立ち上げ、同年10月5日の設立総会において満場一致で「藤野町地区自治会連合会」が設立されました。

また、同時に旧7町村を単位とした「自治会連絡協議会」も組織され、地区内50の自治会が連携し、協力し、支えあう組織が形成され、さらに平成20年4月には他の津久井地域旧3町の地区連と同時に、市連との統合を果たし、ここに藤野町地区における自治会組織づくりが完了しました。

地区連発足後は、定期的に自治会長会議と役員会議を開催し、情報交換はもちろん全体活動を推進すべく、自治会報「ふじの」の創刊や藤野町文化祭への参加など、設立初年度からさまざまな事業展開を進めており、平成20年10月に開催された「藤野ふる里まつり」では、ポイ捨て禁止条例の啓発や振り込め詐欺をはじめとした防犯、防災対策にも力を入れ、自治会として地域住民の生活の安全をPRしました。

また、地区内の問題等も検討しあい、藤野町地域特有の課題について提案し、行政との連携や協力にも重点を置いた活動を進めています。

これから

相模原市としての藤野町地区の自治会は今始まったばかりです。

「かながわのまつり50選」である「藤野祭り」をはじめ、たくさんの伝統、文化の行事を大切に守りながら、地域住民の福祉の向上を第一に考え、藤野町地区が発信するさまざまな情報を全市に伝え、皆

様にとってのふる里となれるよう、自治会員一同頑張っています。

設立40周年という記念すべき年に藤野町地区が市連に加入できたことに感謝申し上げるとともに、更なる相模原市の自治会活動の発展に取り組んでまいります。



藤野町地区自治会連合会設立総会(平成19年10月5日)



特産品(藤野で育った「ゆず」を使ったゆずワインやゆずの尊など)



緑のラブレター



陣馬山頂



藤野やまなみ温泉